

授業科目名	文学(2000012)		
時間割名	文学(11202)		
時間割担当	阿尾あすか		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・1		

授業の目標・概要

文学は、想像力によって構築された虚構の世界を通して、人間の思想・感情等を表現し、人間の感情や情緒に訴える芸術作品である。また、言語をその媒材とする文学作品は、各々の文化をその背景に持つ言語の多大な影響を受ける。本講義では、代表的な日本文学である和歌を中心に、文学とは何かということを考え、そこに描かれた人間のあり方、人間のこころを学ぶ。また、作品の背景にある時代・社会・言語への理解と思索を深め、文学の味わい方を学ぶ。

学習の到達目標

第一に、日本文学とはどのようなものかを、物語や和歌を中心に把握する。第二に、日本文学が、いつ、どのようにして生まれ、どのように伝播していったかを把握し、具体的な文学者や作品に即して理解する。第三に、日本文学に登場する人間を考察するとともに、その社会的な背景についても考える。

授業方法・形式

講義形式である。毎回提示する和歌や文学作品を購読し、それに関する解釈、解説を行うが、受講生の積極的な発言を促す。毎時間、振り返りカードの記述を求める。

授業計画

- 第1回 日本文学をどう捉えるか
- 第2回 文化基盤としての和歌と散文
- 第3回 日本文学の大きな流れについて
- 第4回 日本文学と生き方（人間の思想・感情のとらえ方） 具体的な事例を用いて
- 第5回 日本文学と生き方（社会的な背景の影響）- 具体的な事例を用いて
- 第6回 日本文学における場面生成 和歌を中心に
- 第7回 中世までの文学 和歌、漢詩、有職故実について
- 第8回 中世の文学 『源氏物語』を中心に
- 第9回 中世の文学 『古今和歌集』を中心に
- 第10回 中世の文学 『小倉百人一首』と本歌取り 藤原定家
- 第11回 中世から近世・近現代へ 中世後期から近世初期の文学作品について（中学校に取り上げられている作品を例に）
- 第12回 中世から近世・近現代へ 近世の文学作品について（中学校に取り上げられている作品を例に）
- 第13回 中世から近世・近現代へ 近代の文学作品について（高等学校に取り上げられている作品を例に）
- 第14回 中世から近世・近現代へ 近現代の文学作品について（高等学校に取り上げられている作品を例に）
- 第15回 まとめ 自分の好きな文学作品の紹介をして交流する

成績評価の基準

定期試験60%、振り返りカード20%、授業中の発言や役割20%の割合で、総合的に評価を行う。

授業時間外の課題

- 1 テキストを読み、関連する文献や資料について調べておくこと。
- 2 身の回りにある日本文学に関する資料や文献を再度見直す。
- 3 不思議に思うこと、疑問に思うことは、積極的に質問し、問題提起すること。

メッセージ

講義時間内でお伝えします。

教材・教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。